

# ご挨拶

## 第十九世住職 渡邊隆厚



謹啓 盛夏の候、暑さ厳しいおりご尊家の皆々様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

3月に行われました常楽会につきましては檀信徒皆様に多大なるご協力を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。誠に有難うございました。

常楽会は不動院では四年に一度、うるう年に行つております。また四国八十八ヶ所・四国遍路ではうるう年には『逆打ち』で巡拝する3倍の功德があると言われております。逆打ちとは平年は1番札所～88番札所を巡拝する『順打ち』、逆回りに88番札所～1番札所に巡拝することを『逆打ち』といいます。

では、なぜうるう年に逆打ちをすることで功德が3倍になると言われているかというと、四国遍路を始めた最初の人「衛門三郎」（天長年間の頃）伊予を治めていた河野家の一族に「衛門三郎」という豪農がありました。

衛門三郎は裕福で権力もありましたが、情け容赦のない強欲な人間でした。ある時、三郎の屋敷の前にみすぼらしい姿を見て乱暴に追い返してしまいました。その僧は翌日も、そしてその翌日も何度も現れ三郎はその都度追い返しておりましたが、8日目、三郎は怒って僧が持っていた鉢を竹のほうきで叩き落し、鉢は8つに割れてしまいました。この後、その僧は現れなくなりました。それからというもの、三郎のまわりで不幸が次々に起こり始め、

三郎の8人の子供が毎年1人ずつ亡くなってしまいました。その時、ようやく以前追い返した僧が弘法大師・お大師様だと気付いたと同時に自分にしてきた罪の大きさに気付きました。そしてこれまでの強欲非道な行いを改め、お大師様に出会い許しを請うため四国巡礼の旅に出ました。

それから20回巡礼を重ねたが出会うことは出来ず、21回目は逆に回ればお大師様に出会えるのではと考えました。そして21回目に『逆打ち』を始めその年は『うるう年』であつたといわれます。その途中、病で倒れてしまい、死期が迫りつつある三郎の前にお大師様が現れたのです。三郎は泣きながらお大師様にこれまでの行いを詫び、許しを請い、罪を許してもらいました。そしてお大師様に「来世は河野家に生まれ変わり人の役に立ちたい」と託して息を引き取りました。お大師様は石に「衛門三郎」と書いて三郎の手に握らせました。

それから翌年、河野家に長男が産まれました。その子の手は産まれたときから固く握られ全く開きませんでした。心配した両親がお寺に祈祷に連れて行くとようやく手が開き、中から「衛門三郎」と書かれた石が出てきました。

このような話があり『うるう年』に『逆打ち』をするとお大師様に出会えたということから、ご利益功德が『順打ち』より多いと言われるようになりました。

四年に一度のご縁、うるう年に四国遍路にご興味のある方は、逆打ちで巡拝されてみてはいかがでしょうか。

これからも暑い日が続きますがどうかご自愛のほどお祈り申しあげます。

合掌

### 常楽会の様子 令和6年3月19日(火)～24日(日)

四年に一度の常楽会を無事に厳修いたしました。皆さまから賜りましたご志納は不動院の護持繁栄のために充当させていただきたく存じます。心より感謝申し上げます。



説教・林覚乗僧正 2024.3.21



心豊かに生きるために生きていただけでも楽しんでいました。また4年後

素晴らしい法話を聞かせていました。



中回向法要・3.21



塔婆供養・諷誦供養



常楽会法要・6ヶ寺の僧正様・不動院総代世話人様 2024.3.24

常楽会法要・6ヶ寺の僧正様・不動院総代世話人様 2024.3.24